

## 令和元年度 看護職員就業実態調査結果（訪問看護ステーション）まとめ

## 1. 事業所について

実人員数 5～10 人未満の事業所が最も多く、全体の事業所の約 50%を占めており、平成 26 年度（60.5%）、平成 30 年度（56.4%）調査結果と変わらないことから、事業所の規模の拡大化は進んでいない。

## 2. 看護職員数

看護職員数の総数は、平成 31 年 4 月 1 日時点において 4,063 人で、平成 30 年度調査時より約 1,000 人の増加、平成 26 年度調査時より倍の人数となっている。かながわブランドデザインが示す KPI(重要実績評価指標)の令和元年度 3,411 人、令和 2 年度 3,661 人、令和 3 年度 3,911 人を 2 年前倒しで上回っている。

## 3. 看護職員の年代別構成

看護職員の年代別構成は、30 歳代の割合が全体の 20.7%、40 歳代の割合が 40.4%、50 歳代が 25.8%で、平成 30 年度の構成比とほぼ変わらない。

## 4. 新卒新採用の状況

新卒新採用は看護師が 2 名で平成 30 年度（看護師 1 名、准看護師 1 名）と同様に少ない。今後の採用の予定有りは 17.3%にとどまっている。

## 5. 特定行為研修について

本県では令和 5 年までに県内の訪問看護ステーション（平成 30 年 4 月時点で 610 箇所）の 10%にあたる 61 ステーションに特定行為研修修了者を配置することを目指しているが、特定行為研修終了者は 16 名、研修受講中が 2 名と少ない。

令和 3 年度以降の特定研修受講計画について有りと答えた事業所は 16（2.9%）にとどまる。